

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-07

学校名・団体名	仙台市立寺岡小学校
HPアドレス	http://www.sendai-c.ed.jp/~teraoka/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	復興の先を目指す学校づくり ～自分づくり教育を基盤として～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>東日本大震災は、発災から5年が過ぎ、人々の記憶も薄れ始め、過去のことになりつつある。しかし、被災地では、今なお不自由な生活を余儀なくされ、心の中に不安や葛藤を抱えながら暮らす多くの人々がいる。仙台市や宮城県では、不登校の児童生徒数が増加傾向、児童生徒の自己肯定感が低くなっている傾向が見られる。その要因の一つに大震災の影響があることは否定できない。</p> <p>こうした現状を踏まえ、本校では、大震災直後から被災地の復興や豊かな社会づくりを目指す子供たちを育てるために、「命の教育」「心のケア」「社会と共に歩む教育活動の実施」に取り組んできた。そして、その基盤となったのが「仙台自分づくり教育」である。これは、仙台版キャリア教育と言えるものであり、単なる職場体験や職業体験に終わらせず、「生き方教育」として推進してきた教育活動である。そこには、命の教育が根底にあり、たくましく生き抜く心の教育と学校と地域の協働による教育が重要な要素となっている。</p> <p>この5年間の取組をさらに発展させながら、復興へ向けて取り組んで来た営みが、復興に留まらず新たな時代の教育創造につながることを実証していきたい。そのことが、被災地のみならず全国の学校に向けて大切なメッセージを伝えることになると考えている。</p>	

I 活動内容

1 命の教育

児童の発達段階に応じて、「生きる」ということをテーマに実践を展開した。(年間を通して)

- ・ 1年生 学区内にある保育園児、幼稚園児との交流を通して、自己肯定感や自己有用感を高め、人とかかわりの楽しさに気づく活動。
- ・ 2年生 校地内の「寺岡山」を活用した図画工作科や生活科を中心とした学習を通して、自然と人とかかわりに気づく活動。
- ・ 3年生 「寺岡の宝物」である地域の人々や歴史を調べ、地域に生きる人々の気持ちに触れる活動。
- ・ 4年生 私たちの生活と深い結びつきがある水やゴミ、エネルギーに着目し、環境と人とかかわりについて考える活動
- ・ 5年生 様々な学習活動を通して、命と食との関係を調べる活動。そして小さな命を考える会代表佐藤敏郎氏との授業により、1年間の学習のまとめとして生きることの意味をより深く考える活動
- ・ 6年生 地域の高齢者や下級生に対し、自分たちができることを実践していく活動
- ・ かやのみ 様々な学習活動や交流を通して自分の役割を意識し、職場見学を行うことで将来の自分の姿をイメージする活動



2 子供たちの心のケア

- ・ カウンセリングやアンケート(4月と10月に実施)により児童の心理状態を把握し、時間の経過とともに変化する実態を分析した。(協力:宮城教育大学)
- ・ 把握した状況をもとに、スクールカウンセラーなどの協力も得ながら、学校全体で取り組む教育相談体制を強化した。

3 社会と共に歩む教育活動の実施

- ・ 地域諸団体と協働で取り組む防災教育
市民センター主催「伊達な防災イベント」へのボランティア参加など
- ・ 連合町内会、体育振興会、おやじの会などとの協働で行う行事への参加
寺岡・紫山オリンピック、寺岡夏祭り、紫山夏祭りなど



II 成果

- 1 身近な自然や地域の人々と触れあう体験的な活動の設定は、子供たちに「生きる」ことのすばらしさを感じさせることや自己有用感、自己肯定感を高めることに有効であった。

低学年では、地域にある保育園児や幼稚園児との交流を通して、自分ができていることを確かめ、互いに協力し合うことで他者との関わり方を知ることができた。

中学年は、学習フィールドの中心を地域に置くことで、子供たちが主体的に活動することができた。3年生は、地域の人々との学習を通して自分たちの生活する場が、様々な人々の関わりによって成り立っていることを知ることができた。4年生は、環境をテーマにして自らできることを考えて実行することができた。

そして、高学年には、様々な視点から自分も地域社会の一員であるという思いを持たせたことで、自分が地域のためにできることを考え、実践することができた。

- 2 スクールカウンセラーや相談員への相談やアンケートの結果などから、本校児童の内面を把握し、学校、保護者、地域が協力して支援することができた。

- 3 地域の様々な行事に参加するだけでなく、防災イベントや市民センターまつりなどでボランティアとして協力したり、出演したりする活動を通して、地域社会の一員としてやれることがあることを知ることができた。

